2 Bp- 3　高齢者および次世代高齢者における家電製品の評価性ストック情報について

宇都宮由佳*　○滝山桂子**　益本仁雄***
(*大妻女大・院, **上越教育大, ***大妻女大)

目的　我が国の社会は、急速に高齢化が進行し、家電製品はユニヴァーサルデザインの導入が検討され始めている一方で、ハイテクを駆使した多機能タイプも登場している。先行研究では、商品購入のニーズは、生活者がそれまでストックしている商品情報（以下、ストック情報）により喚起されると報告されている。商品の善し悪しを判断する評価性ストック情報は、ニーズに影響を及ぼし、かつ加齢との関連が指摘されている。本研究では、家電製品に対する評価性ストック情報を取り上げ、高齢者および次世代高齢者の実状を明らかにし、さらに、これと家電製品のニーズとの関連を検討することを目的とする。
方法　短大生の両親および祖父母を調査対象とした質問紙調査、文献調査、家電業界および高齢者へのヒアリング調査により検討した。調査した家電製品は、カラーテレビ、電気冷蔵庫など７品目、質問項目は、調査対象の属性、身体機能、家電製品の使用状況と問題点、および取り扱い説明書の活用状況と問題点などである。
結果　評価性ストック情報として、家電製品の機能・操作、構造・表示の問題指摘率の結果から、家電製品の普及開始時期および高齢者および次世代高齢者により、問題指摘の内容は異なっていた。ヒアリング調査から、単機能製品のみ使用している高齢者の中には、使い方を教えてもらえば、便利な多機能製品を使用したいという要望もあった。一般的に、他に相談相手がいるという外部性のストック情報は加齢とともに減少する傾向があるため、外部性ストック情報を補完すべく支援していくことにより、内在している高齢者の家電製品に対するニーズは顕在化し、高齢者の生活が積極的な方向に変化することが示唆された。